

# 大田高校 人権だより

## < 1 学期の人権教育 HR 活動について >

### 3年生「就職差別に学ぶ」

6月13日(木)、3年生一回目の人権 HR 活動が行われました。今回のテーマは「就職差別」。昔の履歴書(社用紙)と現在の履歴書を見比べながら、社用紙の問題点を考え、その後、実際に「差別につながる14事項」の確認をしました。最後には、事業者から差別的な質問をされた時にはどう対応すればいいか、大田高校ではどのような対応をしているのかを確認しました。本校では大半の生徒が進学しますが、将来就職するときに「差別を見抜く」力をこの時間でつけてもらえたと思います。



(生徒の感想より) \* \* \* \* \*

昔の採用試験では、個人のことだけでなく、自分の周りの人のことまで細かに伝えなければいけない感じでしたごく怖いと思いました。今回、この授業を受けたおかげで、答えなくていい質問など知ることができたので、将来就職する時などの面接や書類を書くときの参考にしたいと思います。自分のことを知ってもらうために、必要なことと必要でないことの区別をちゃんとして、もしそういうことがあったときもはっきり断るようにしたいです。

\* \* \* \* \*

私は大学進学を目指しているので、就職するのはもう少し先の話になりますが、いずれは直接関わってくることで、理解を深めようと思い取り組みました。就職先を決める時は、自分の人生を決めていく上で大きなターニングポイントになることは間違いありません。そのような場に差別があってはならないと思います。しかし、他の場合ならば差別があっているのかというと、そうではありません。どんな時でも公正な対応が求められます。今回、就職差別ということで学びましたが、それと同時に「差別」というもっと大きいスケールで考えることができたと考えています。将来的に、役に立つことでしたのでよかったです。

### 1年生「よいよい人間関係作りのために」

7月11日(木)、1年生一回目の人権 HR 活動のテーマは「よりよい人間関係作りのために」でした。ふとしたやりとりの中で、自分の言いたいことが言えずもやもやしたり、相手の気持ちを考えず一方的に責めたり・・・このような対応ではなく、「自分の意見も主張しながら、相手の言い分もきちんと聞く＝アサーティブな対応」について、身近な場面を想定して会話を考え、発表しました。最初は言いたい放題(失礼)だったやりとりも、最後はお互いの立場を考えた、非常にさわやかな表現になっていました。ある担任の先生が、まとめの言葉に「身近な人同士だからこそ、言い過ぎたりしている部分はないか。相手が傷ついているかもしれないと考えたことがあるか。」とおっしゃっていました。確かに、グループ活動中、自分のことを振り返り、少し相手のことを考えてあげるだけでその場の雰囲気はずっと和やかなものになりました。今回の学習は、これから学園祭や課題探究学習に向けて、お互いの理解や団結に大いに役立つスキルとなるでしょう。

(生徒の感想より) \* \* \* \* \*

僕は人生で人からアサーティブな事を言われたことはないし、言ったこともありませんでした。この活動で、アサーティブなことを言われると色々な事がトラブルなく済む便利なものなんだなと思いました。今回の HR の経験から、何か腹立った事があってもそれをすぐに言わず、いちど踏みとどまって考えるようにしようと思いました。僕は今思春期にあり、不安定な時期だと思うので親が言うことにすぐに腹を立てずアサーティブな言い方を心がけていきたいなと思いました。

\* \* \* \* \*

今回の「アサーティブな受け答え」の授業を通して、実は『こういうときに相手を傷つけていたかも知れない』、『自分の言いたいことを言えずにがまんしていたかも知れない』と思いがたることが多くて、次からはこんな風に返してお互いに気持ちよく解決できるようにしていきたいと思いました。「やだ〜」「うざっ」とか「腹立つ〜」とかはそんなに言うことはないはずだけど、それを聞いて他人を不快な気持ちにさせていたかも知れないと思うと、次からは主語をつけるか、思っても言わないようにします。あと、話し合いを通じて、同じグループの人たちと今まで以上に仲良くなれたのでよかったです!



## <ハンセン病>ってなに？

最近ニュースで話題に上ることが多い「ハンセン病」。でも、どんな病気で、なにが問題視されているか知っていますか？

「ハンセン病」とは、皮膚の色が変わったり固くなったり、末梢神経が影響を受けて手足が動きにくくなったりする病気です。ハンセン病は外見がひどく変わる病気であったせいか、感染力も低く、確実な治療法が見つかった病気であるにも関わらず、病気にかかった人達は強制的に隔離されたり、子どもを産めないように手術させられるといった人権侵害が長く行われてきました。さらに、国が政策を改めなかったため、病気にかかった人や家族までもが差別や偏見に苦しむ状態が長く続いていました。この状況は、平成8年、「らい予防法」が廃止されるまで続きました。

今年7月9日、安倍首相は、ハンセン病元患者家族への差別に対する国の責任を認める決断をしました。しかし、謝罪や賠償金では、何十年も家族と引き離され、差別に苦しんだ人たちの人生は戻りません。また、この問題の1つに「無知の恐ろしさ」をあげる人もいます。偏見や噂などに流されて考えたり行動したりしている人はいませんか？正しい知識が正しい判断を導きます。正しい判断が差別と闘う力を育てます。差別がいかに愚かなことか、今一度、私達も自分自身の行動を振り返るきっかけにしたいものです。

次にあげる手記は、島根県が作成したハンセン病を正しく知るための学習資料「手と手をつないで」からの引用です。皆さんも、ハンセン病だけでなく、ニュース等で気になった身近な人権問題について、周りの人たちと話してみてください。新しい「学び」がたくさんあると思いますよ。

私が6歳の時のことです。夜、突然トラックがやってきて、警察の人たちが私の父を連れていってしまいました。父は、ハンセン病でした。その時母が叫ぶように言った「罪人じゃありません。」という言葉は、今も忘れることができません。(中略)私の手は、病気のあとが残り、指が曲がっています。はじめはこの手を見られるのは恥ずかしかったのですよ。でも、悪いことをした手じゃない、働き続けた手なんだからと考えられるようになりました。「らい予防法」がなくなって、この島にもたくさんの小学生や中学生が来てくれるようになりました。みんなこの手を握って握手してくれます。人間が自由に行ったり来たりできるって、なんてすばらしいことなんだろうと思います。

来てくれた子どもたちに、必ず言うんですよ。「おじいちゃん、おばあちゃんにハンセン病は恐くないって言ってちょうだいね。すぐにできることでしょ。」そして「ハンセン病にかかった人だけじゃないよ。誰も差別しちゃういけないよ。」と。

(「手と手をつないで」大西笑子さんのお話から)

## <大田高校2学期の人権・同和教育関連行事>

9月20日(金) 人権・同和教育教職員研修会

10月 3日(木) 3年生対象人権・同和教育講演会

31日(木) 人権学習 HR(1年生・3年生)

11月14日(木) 人権学習 HR(2年生)

## <担当者より>

大田高校に赴任してあっという間に1学期が終わってしまいました。人権・同和教育に関しては、他校でも経験はあるのですが、やはり生徒の願いや実態に合わせた「大高スタイル」の確立は難しく、考える機会が多くあります。3年生「就職差別」・・・ほとんど大学に進学する大高生に、この話題がピンと来るのか？いかに「自分ごと」として考えてもらえるかを担任の先生方と検討しました。1年生「アサーティブな対応」・・・SNSを含め、コミュニケーションのトラブルで困っている生徒、高校で環境ががらっと変わって戸惑っている生徒たちに、「自分を知り、他者を知る」機会として提案しました。大事な場面ではこの考え方を思い出して、よりよい人間関係づくりに役立ててほしいものです。

さて、人権・同和教育担当者として様々なテーマの講演会等に出させていただきますが、その中から印象に残った言葉やメッセージを紹介します。

- ・人権教育の進んだ学校は学力向上にもつながる～個々の生徒に目を向けた上での取り組みが教育の一番の基礎基本
- ・差別を「なかったこと」にすると、現実社会で自分に起こった差別に苦しむ～就職や結婚に関する差別を、「関係ない」と思わせない→知識だけでなく、「差別と闘う力」をつけさせる大切さ
- ・名のある〇〇に引っ張られるけれど～名のある教育(学校)だけでは子どもは育たない。名のない教育(家庭や地域)も大事
- ・「やさしい日本語」=外国人に伝わる日本語～わかりやすく伝えることは、相手が誰であれ、基本中の基本
- ・自分を変えるのも社会を変えるのも「一念」～希望を失わない、自分を大切にする、情報(助け合い、分かち合った人)を大切にする

発行 令和元年8月30日  
大田高等学校 人権・同和教育部